ドクターメモ

お酒の影響は肝臓だけではありません

アルコールと膵炎（すいえん）

膵臓という臓器を知っていますか。膵臓というのは食事の中のタンパク質、炭水化物、脂肪などの消化に関わる消化液を作る臓器です。それだけではなく糖尿病に関わるインスリンという物質も作っています。アルコールは肝臓に影響するため休肝日をつくるようにしましょうという話をよく聞きますが、膵臓との関わりはあまり知られていません。

膵臓の大きい病気にがんのほか、急性膵炎と慢性膵炎という病気があります。急性膵炎の多くはアルコールもしくは胆石が原因していることが多いですが、それらが原因となり、膵臓でつくられている消化液が臓器の外にしみでてくることにより、自分の膵臓を部分的にとかしてしまう病気です。場合によっては死に至ることもあります。慢性膵炎とは持続性、進行性に膵臓の細胞に炎症性変化を繰り返し、細胞の慢性変化をきたし、先述した、消化液やインスリンなどを作れなくなってしまう状態のことを言います。慢性膵炎になると慢性的な腹痛、背部痛、慢性の下痢や、糖尿病を発症することもあります。急性膵炎は治ったけれど慢性膵炎に移行したという人も少なくありません。アルコールをどのくらいを飲むと膵炎になるのかという指標がなく、飲む量、頻度、アルコール度数、体調などにもよって変わります。アルコールのリスクを知って、度が過ぎないように、楽しむようにしましょう。

吹田市医師会　谷野（たにの）　眞通（まさみち）